

【平成30年度 学校評価（中間評価と今後の手立て）】

本年度の重点目標	ア 歴史と伝統を基盤にした地域に信頼される活力と魅力にあふれる学校づくりの推進 イ 教師と生徒の信頼に基づいた授業づくり、学校行事づくりの研究と実践 ウ 基本的生活習慣の確立による個の充実と生徒会活動・部活動の活性化による組織力の向上				
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項	中間評価	今後の手立て
学習指導 （教務部） （各教科会） （各学年会）	授業に臨む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の準備の定着を図る。 ・チャイム後、すぐに授業を開始できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会を柱に、教員間の連携を取り合って、授業規律を守らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、教科担任を中心に粘り強い指導を継続している。生徒は概ね良好な状況であるが、一部十分ではない状況も見受けられる場面があるため、指導を継続していかなければならない。 ・教科会においては、夏の教育課程連絡協議会での情報を共有し、次期学習指導要領を見据えた授業改善に向けた検討を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、学校全体の課題として捉え、授業規律の厳守の意識をもった継続指導を依頼していく。また、次期指導要領の考えを踏まえた授業改善を積極的に試みていく。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ガイダンスを通して、学習の目的、授業の受け方、予習・復習の仕方について、しっかり説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ガイダンスを通して、生徒に学び方をしっかり伝え、授業に対する取組、家庭学習に対する取組を前向きに実践させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体や教科会、教科担任で創意工夫を凝らしているが、特に1・2年ではなかなか学習意欲が向上していない生徒がいる現状がある。 ・何ができるようになるかを授業の柱として、少し上のレベルを見させながら、学習に対する意欲向上を目指している。 ・課題の提出については概ね良好ではあるが、個別の指導が必要な場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、学校全体の課題として捉え、さらなる創意工夫を凝らした粘り強い指導を依頼していく。 ・一人の取組ではなく、教科としての力を蓄えていくため、教科会の充実や研究授業等を有効活用して、学校の教育力を高めていく。
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業などの生徒の学力に応じた授業展開を工夫し、授業内容の理解度を高める。 ・計画的な確認テストを実施していくことで、生徒の理解度を把握していく。 ・計画的な課題学習を通して、家庭学習の習慣化を図り、基礎学力を定着させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体裁を整えるだけの作業ではなく 基礎学力を定着させるために必要な学習を具体的に丁寧に説明し、実践させる。 ・学年会と協力して生徒の家庭学習の実態を把握し、今後の指導に役立てていく。 ・生徒のレベルに応じた基礎学力を育成するための指導の仕方を、各教科会で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会、教科担任、学年会を中心に基礎学力 定着のための様々な取り組みを実施している。成果については測りづらいが、模試の結果や進路実績をみると、わずかではあるが向上しているような様子がかがえると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、予復習の仕方、課題への取り組み方等について、丁寧に手順も含めた指導を継続していく。そして、実際に実践させていくための工夫もしながら、前向きに取り組める生徒を増やしていく。 ・家庭における学習においては、保護者のサポートも欠かせないため、保護者会等を活用し、家庭における学習環境等の支援をお願いしていく。
授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間の活用、教科会における授業研究を通して、教師の授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するアンケートを実施し、各授業の担当者が授業改善に活かしていく。 ・教員の授業力を高めていくための活動を、学習指導委員会と教科会が中心になって、進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間や研究授業で他の教員の授業へ足を運ぶ教員の数は増加していると考えている。各先生方が授業アンケートを実施し、授業改善のための材料としている。様々な研究会に参加する教員が増え、そこで得た情報を共有することで、授業力の向上を目指す先生方が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、既存の方策を実施しながら、さらなる授業改善を進めるとともに、新教育課程への移行も考慮した授業改善を推進していく。 ・1回目の授業アンケートは定着してきたが、そこで得た情報により改善した結果を検証するため、2回目のアンケート実施の必要性を伝えていく。 	
生徒指導 （生徒指導部） （各学年会）	基本的生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・安易な遅刻・欠席をさせないよう指導する。 ・家庭との連携を積極的に図る。 ・声かけや面談を積極的に行うことで、生徒の変化を見逃さず適切な指導を行う。 ・安心して学べる教育環境の整備として、教務部と連携し、授業規律の確立にともなう指導体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングマインドを持ち、生徒の多面的理解に努め、状況に応じた個別指導を行うことに留意する。 ・学年との連携を重視した指導体制を構築することに留意する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年それぞれが遅刻減少を目指した方策をとっており、その指導姿勢が徐々に生徒への時間を守る意識へとつながっていったように捉えられる。生徒に対する指導、担任を中心に保護者との連絡が、密にとられ、家庭との連携が重視されている ・個に応じた指導や適応指導が重視されており、教育相談部と各学年との連携が十分なされている。 ・カウンセリングマインドで、問題行動の背景にある原因を探りながら、個々に応じた適切な指導がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学校での様子を伝達するとともに、家庭における様子についても、不登校傾向にある生徒に対して、対応が後手にならぬよう、学校全体や外部との連携を早期に進めることを検討していく。
	規範意識、自己有用感、情報モラルを高める指導。	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して学べる教育環境の整備として、教務部と連携し、授業規律の確立にともなう指導体制を構築する。 ・携帯、スマートフォンの校内における使用規定を遵守させる。 ・情報モラルに関する講話や啓発資料を活用した指導を行う。 ・地域、警察との連携した指導の機会を設定し規範意識や自己有用感を高める指導を行う ・保護者への学校における指導方針の伝達に努め、連携した指導を図る。 ・生徒の自主的活動（部活動、学校行事等）の場を充実させ、その評価を十分に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識向上のために、あらゆる指導の機会をとらえ、効果的な啓発指導に繋げる。 ・担任を中心に行われる保護者への連絡等の機会をとらえ、学校における生徒の多面的な情報提供とともに、家庭における状況理解に努める。 ・あらゆる場面において、生徒の自主的实践を見逃さないよう留意し、結果について適切な評価をすることを心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間での指導基準に差違がなく、一定の指導基準に基づいて円滑な生徒指導がなされているため、落ち着いた生活環境のなかで教育活動が進められている。 ・今年度から変更改善された校内におけるスマートフォンの使用規定は、生徒の混乱もなく遵守されており、不適切な使用状況は減少している。 ・担任を中心に学校における指導方針の伝達に努めていて、学校側から保護者への連絡がなされることが多くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故は時期によっては増加しているため、啓発指導をさらに行っていく。 ・遅刻した生徒に対して更に、家庭と連携しながら個別指導を行っていく。 ・各学年における集会での指導を有効な啓発指導として重視し、機会をとらえて適切に実施していく。 ・スマホに関するマナー指導において、啓発指導をさらに行っていく。 ・家庭との連携は更に重視していく。
進路指導 （進路指導部） （各教科会） （各学年会）	効果的な進路行事の設定や進路学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスや進路学習の時間をとおして、進路意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい職業観を育成するために、ライフプランの作成などの進路学習の時間を効果的に配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業や総合進路学習の時間などで自分を見つめ直す機会を設定したことにより、自己分析ができた。その上で理想の自分に近づくための進路選択を考えることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習全体を、大学進学のみを重点的に考えるのではなく、自主的に自らの将来を決定できる自立の精神を育むための場になるよう、他校の取組なども参考にしながら検討をしていく。

<p>学校安全・保健 (生徒指導部) (保健厚生部) (総務部) (各教科)</p>	<p>健康や安全に対する意識の高揚と体力の向上を図る</p> <p>生活習慣改善のための啓発活動を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会を利用して、健康や安全について考えさせ、生命の大切さや安全のための実践的な能力を育成する。 保健だよりなどを通して健康に関する知識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事のあり方をその都度見直し、安全・健康への意識を高め、命の大切さを自覚させるよう工夫する。 災害時への適切な対処法について、避難訓練・防災講話・LT等を通じて生徒の自覚を促す。またきずなネット等を利用して保護者・家庭との連携に配慮する。 交通安全について様々な機会を利用して注意を喚起していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健便りによる啓発指導が、生徒の理解や生活習慣の改善につながっているのかを検証する必要がある。 球技大会や体育祭での熱中症対策として、水筒及び帽子持参可としたことやテントの常設はよかった。 7月から熱中症暑さ指数(WBGT)を常時に計測し、学校全体への周知を図った。高指数を示した場合は部活動禁止等の措置をとり危機管理に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健便りの発行の際はできるだけLTの時間を利用して必ず目を通せるようクラス担任の協力を求めていく。 相談室利用の紹介を年度始めにしっかり行う。特に1年生には担任より時間をかけて説明し利用することで初期対応に役立てていく。 熱中症対策は次年度以降も継続していく。
<p>保護者連携 地域連携 (総務部) (生徒会)</p>	<p>家庭や地域社会との連携を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針に対する地域や保護者の理解と協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と保護者、地域住民や健全育成の団体等と連携を密にし、関係部署とも連絡を取りながら地域への情報発信に務める。特に保護者にはきずなネットを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果より、保護者の学校に対する評価と保護者が学校に対してどのような要望、意見、感想をもっているかを把握することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 対応可能な事柄に対する方策を、分掌・学年を中心にして早期に対応案検討し実践していく。
<p>いじめ・不登校対策委員会</p>	<p>いじめの未然防止に係わる取り組みの充実</p> <p>いじめの早期発見、適切な事案対処</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマとした活動を取り組み、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 「学校生活に関するアンケート」(年2回実施)の実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、迅速な対応に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちが、いじめ問題に対して主体的に考え、行動できるようにする。 生徒が記入しやすいアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応の在り方について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 面接週間において、生徒一人一人に声をかけるだけでなく、普段の教育活動の中で、生徒の些細な変化を見逃さないように目配りすることや、積極的に教師側から声かけするよう努めている。 学校生活アンケート実施後の対応は、各学年や部活動顧問の迅速な面談や指導により、細かく対応しており、早期対応がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との情報共有や連携をしていくことが、生徒への適切な対応につながることを再確認し、学校組織での対応を進めていく。 人権週間の活用や、HR単位において生徒自らが、いじめ問題に関して考える機会を意識的に作っていく。 学校全体による啓発活動を今後も実施していく。 不登校生徒への対応として、学校全体としての早期連携をより一層図っていく。